

AI時代の 文化と社会と データサイエンス

『源氏物語』研究者が切り拓いた世界

入場
無料

2026年
11/14 (土)

15:30~17:00 (受付は15時から)

武蔵大学

2号館5階 2501教室

※車、バイクでのキャンパス入構はできません。
公共交通機関などをご利用ください

AIで生成された浮世絵



※SakanaAIが開発したAIソフトEvo-Ukiyoe-V2による生成画像を使用。

スマートフォンを向けるだけで、筆で書かれた古い文字が現代の日本語に変わる。そのアプリを開発したのは、タイから留学し『源氏物語』の注釈研究で博士号を取った研究者でした。

千年以上にわたって使われてきた「くずし字」の史料は、日本に1億点以上残っていますが、読める人はごくわずかです。カラーヌワット・タリンさんは、この「読めない」を「読める」に変えるためAI研究へ進み、いまは**Sakana AIで日本文化を理解するAIモデルを開発**しています。文学だけでなく、地震や感染症、天気の詳細まで、AIは過去と現在をつなぐ架け橋になりえます。

AIが暮らしに入り込むなかで、これは文化の問題であると同時に、社会の問題でもあります。本講演会では、文化と社会とデータサイエンスの関係を、ともに考えます。

【講師】 カラーヌワット・タリン (Tarin Clanuwat)

Sakana AI
Staff Research Scientist

早稲田大学大学院博士後期課程修了。博士(文学)。
国立情報学研究所にてくずし字認識を研究し、Kaggleコンペを主催。
くずし字認識アプリ「みを」で2022年グッドデザイン賞受賞。
Google Brain、Google DeepMindを経て、現在Sakana AIスタッフ
リサーチサイエンティスト。近年は古文対話モデルKaramaru、
浮世絵生成モデルEvo-Ukiyoeなど日本文化とAIの研究に従事。



Program

- 15:30~15:35 池田 康夫所長より開会挨拶
15:35~16:35 第一部 カラーヌワット・タリン氏による講演
16:35~16:55 第二部 ディスカッション
パネリスト: カラーヌワット・タリン氏
ファシリテーター: 庄司昌彦教授
(武蔵学園データサイエンス研究所 副所長 / 武蔵大学社会学部教授)
- 16:55~17:00 閉会挨拶

参加お申込み

以下のウェブサイトからお申込みください

<https://www.musashigakuen.jp/torikumi/datascience/index.html>

【申込締切】 11月13日(金) 13時申込メ切

【定員】 100名 (先着順、定員になり次第締め切り)



■お申込みに関係するお問い合わせ

(株)武蔵エンタープライズ

TEL:03-5984-3785 FAX:03-5984-3787

e-mail: direct@634.co.jp

■内容に関するお問い合わせ

武蔵学園情報コミュニケーション部
情報システム課

TEL:03-5984-3739

e-mail: dsr@sec.musashi.ac.jp

【個人情報の取扱いについて】

受講者の個人情報は本学の個人情報保護指針に従って厳重に管理し、本講演会の運営目的以外に使用することはありません



武蔵学園
データサイエンス研究所
Musashi Data Science Institute